

○ 背景と目的

- ・「インフラシステム海外展開に向けた海外のスマートシティ動向に関する調査研究 -2022年度調査研究のまとめ-」で紹介したアラブ首長国連邦アブダビ市の事例について、現地調査結果を踏まえ、紹介

○ 調査結果

1. マスダール・シティ (Masdar City)

- ・最先端のスマートシティ技術を実際に体験することにより世界にアピールするためのショーケース的な役割を担っており、電気自動運転バス、自動運転の個人向け高速輸送システム (Personal Rapid Transit: PRT) 等がある。
- ・現在は一部が完成しており、将来的には約5万人の居住人口を目指す。
- ・計画策定や設計等においてイギリス企業、アメリカ企業の関わりが見られる。

2. ヤス島 (Yas Island)

- ・2006年に開発計画が発表された2,500haの人工島にあるスマートシティで、テーマパークやショッピングセンターの開発・整備が行われている。
- ・3種類の異なるトラムバス、ロボタクシー、自動運転ミニバス等の自動運転モビリティが運行されている。

3. 統合交通センター (Integrated Transport Centre)

- ・アブダビ市内における公共交通政策を中心に担当
- ・バスの運行頻度改善、水素バスやLRTの整備などを実施することで、公共交通分担率を1%(2014年)→50%程度(時期未定)とすることを目指す。



▲マスダール・シティ (赤丸) と
ヤス島 (黄丸) の位置図



▲マスダール・シティの概観



▲電気自動運転バス
(マスダール・シティ)



▲ヤス島の鳥瞰図



▲ロボタクシー (ヤス島)



▲統合交通センター